Q052. 構造化・視覚化ってなに？

A. 文字や言葉でうまく伝わらないひとに、絵や写真・映像で伝えることだよ

話し言葉に注意を向ける習慣が少なくて、瞬間的に消えてしまう話し言葉という情報を取り込むことが苦手な子どもたちがいるんだ。

言葉には見えないけれど表情や感情・ニュアンスというものがあって、それを感じ取ることが苦手な子どもがいるんだね。
そのために、言葉の意味や情感なんかも理解することが難しいんだ。
だけど、興味があることには関心があるから、意味が解らなくてもけっこう難しい言葉を頻繁に使う子どももいるよ。

言葉を聞いて、その情景を思い浮かべることに難しさがあると、話をしていてもすぐに映像と結びつかない。
こういうときは、言葉よりも書いた文字とか写真・イラスト・映像などの、何度でも確認できる視覚からの情報のほうが解りやすいことが多いんだよ。
これを視覚化、と言っていて、構造化、っていうのは情報を解るように伝えるための手段のことなんだ。

手を洗ってね、という言葉かけよりも、手を洗う仕草で示したほうが解りやすい、というのはその一例だね。
手の洗いかたを覚えてもらうのに、言葉では理解しにくくても、文字やイラスト、もしくはその両方で手順を示すと理解しやすくなるんだ。
いまは、スマートフォンやタブレットなんかが便利になっているんで、映像として見てもらうのもひとつの方法だね。

写真やイラスト・映像で見てもらうときは、撮りかたや描きかたにちょっと工夫をするといいよ。
当人が見えているようにするのがポイントだね。
手を洗っている画像を正面から撮ったり描いたりするんじゃなくて、洗っている自分の手を見ている、という視点で画像にすると、ぐっと理解しやすくなるんだ。

これは折り紙なんかでもそうで、向い合せでやると解りにくいよ。
横並びで、同じ方向で折るようにすると、とても解りやすい。
こういうところでも、利用者さんと同じ目線、っていうことが大切なんだね。

あと30分で帰ります、っていうときでもただ時間を告げるんではなくて、タイマーをセットして、00:00になったら帰ります、のほうが解りやすいよ。
ぱっと聞いただけでは解りにくくても、目で見ることが出来る情報に変換することで解りやすくなるんだ。
これは、ほかの場面でも使えるよ。

１日のスケジュールでも、写真やイラスト、ときには文字と組み合わせて貼っておく。
それが済めば、裏返したり取り外したりして終わったことを示す。
この、見える化のことが視覚化、見える化システムを構築することを構造化って言っているんだ。

写真や映像は、出来事を記憶するのが苦手な人にも活用しやすいよ。
その日にやった活動なんかを録画しておいて、帰る前になにをやったのかを見て思い出すというのも方法だね。
どうしたらいいかわからなくなったときに、映像で確認して行動できるようにする、というのも使いかたのひとつだと思うよ。

《MENU》

《個別支援会議っていうのは？　　重要事項説明書ってどんなもの？》

放課後等デイサービス支援事業
Support Project Of
Day-service for After-school
At Kyoto

2021-09-06 掲載